

小美玉市の歴史を知ろう 57

小川で受け継がれる神社と神輿 — 大工・雨ヶ谷八十吉 —

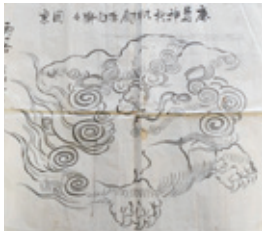
雨ヶ谷八十吉

鹿嶋神社、素鷲神社の神輿など、小川の神社やお祭りに関する建築は、地元出身の大工棟梁が手がけています。今から150年前の明治5年(1872年)、現在の小川に生まれた雨ヶ谷八十吉です。大工職人の父から神社建築の技術を学び、他の職人とともに仕事に励む中で、八十吉は建築の技術と理論を体得していきます。父の死後、八十吉は自らの技術を二層磨きつつ、棟梁として腕をふるいました。八十吉が手がけた建築の一部を、関係資料とともにご紹介します。



鹿嶋神社 拝殿

下馬場地内に鎮座する鹿嶋神社は、大同2年(807年)、現在の場所に社殿が造営されたと伝わりま



鹿嶋神社 獅子鼻下絵

社を想う多くの人々の尽力がありました。

す。江戸時代には小川、馬場など周辺の村12郷の大鎮守となり、明治5年に郷社に列せられました。大正15年(1926年)、拝殿の屋根葺き替えなどの修繕工事が、八十吉ほか2名の大工棟梁と職人によって始まりました。現存する下絵から、八十吉は虹梁の端を飾る獅子鼻を製作したとみられます。

拝殿修繕工事は、昭和2年(1927年)に完成しました。同年8月には、小河城主を務めた戸沢政盛の子孫にあたる戸沢正己子爵により、宝刀が納められました。先祖の戸沢政盛は、天正年間に焼失した鹿嶋神社を再建した人物です。神社修繕の背景には、地域のお

素鷲神社神輿

小川の夏を彩る祇園祭。祭礼に欠かせない神輿は、神様が町内を巡るときに乗り物です。現在の素鷲神社の神輿は大正14年に新造され、昭和59年(1984年)に改修されたものです。この神輿は八十吉が製作を手がけました。

現存する立面図には、装飾を抜いた神輿の全体像が描かれています。寸法や指示書きなどの書き込みや、一段ずつ丁寧な描かれた桷組みなどは、八十吉も手を加えたと思われま。神輿と真摯に向き合う棟梁の姿が想像できます。



素鷲神社 神輿図面

神輿完成の翌年、素鷲神社にて神輿の遷宮式が行われました。この時の集合写真には、神輿や関係者の一人に八十吉も写っています。写真からは、神輿を前に誇らしげな気持ちで伝わってくるようです。神社・お祭りと関係する建築は、地域の大切な歴史であり、誇りです。人々により、現在に至るまで大

切に守り伝えられてきました。この先の未来にも、脈々と受け継がれていくことでしょう。



神輿遷宮式(大正15年)に参列する八十吉(2列目の右から2番目)

語句解説

郷社 旧社格の一つ。府県社の下、村社の上に位する。

虹梁 社寺建築に用いられる、やや反りを持たせて造った化粧梁。

桷組み 社寺建築の柱上にあり、軒を支える部分。斗(四角い部材)と肘木(舟形の部材)を組み合わせて構成する。

【開催中】小川資料館 参考展
小川で受け継がれる神社と祭礼
— 大工棟梁 雨ヶ谷八十吉 —
詳しくは7ページをご覧ください